

方針1 「知りたい」がみつかる図書館

方針2 「行きたい」場所となる図書館

方針3 子供の「読みたい」を育てる図書館

方針4 誰もが「使いたい」図書館

方針1 「知りたい」がみつかる図書館

①「もっと知りたい」を提供します

「読んでみたい」と思う資料を充実させ、新たな本との出会いや発見を提供することで、知的好奇心を刺激し、市民の「もっと知りたい」につなげます。

②「知りたい」をサポートします

「困ったら図書館へ」という機運を高め、日常生活や仕事の中での「なぜ？」や「どうしよう？」に対して、それぞれが求める情報や解決方法を探すサポートを行います。

③「常滑市を知りたい」に応えます

継続的に「地域のことが分かる」資料を収集し、積極的に公開することで、過去と現在の常滑市についての理解を深め、未来に繋いでいきます。

課題の整理

第1節 資料の整備

- 1 資料費・蔵書の充実
- 3 地域資料の充実

第3節 図書館に求められる役割

- 1 課題解決の支援

方針2 「行きたい」場所となる図書館

① あなたの「目的地・居場所」です

親子または一人で、読書でまたは勉強でと、図書館に行く理由や目的は様々ですが、行きたい場所（目的地）・過ごしたい場所（居場所）として「選ばれる」図書館を目指します。

② 「居心地の良い場所」を提供します

図書館は、幅広い世代に利用され、それぞれが求める環境は異なりますが、それぞれにとっての「お気に入りの場所」となるような、居心地の良い空間を提供します。

③ 「気軽に立ち寄れる場所」とします

本を借りる目的以外の人でも、気軽に立ち寄れる図書館とすることで、本との出会いや人との交流が生まれるきっかけを作ります。

課題の整理

第2節 新たな利用者の取り込み

- 3 本を手にするきっかけ作り

第3節 図書館に求められる役割

- 2 居心地の良い空間作り
- 3 多世代の交流の場

第4節 家庭・地域との連携・協力

- 3 子供を連れて行きたくなる環境作り

方針3 子供の「読みたい」を育てる図書館

①「読みたい」気持ちを育みます

子供たちが本と出会い、読む楽しみを知り、自ら「本を選びたい」「一緒に読みたい」と思えるよう、家庭や地域と連携して「本が好き」という気持ちを育てます。

②「読みたい」が続く応援をします

保育園等で過ごす時間が長くなっても「本が好き」という気持ちが続くように、読み聞かせをする大人たちや、身近にある園文庫が、子供たちの「読みたい」を後押しします。

③「学校でも読みたい」に協力します

学校側が公立図書館を「頼りにしたい」と思える関係性を作り、子供たちにとって身近な存在である学校図書館を、子供たちが「行きたい」場所にする手助けをします。

課題の整理

第4節 子供の読書活動の支援

- 1 家庭における読書活動の推進
- 2 保育施設等における読書活動の推進

第5節 学校図書館の充実

- 1 学校図書館の魅力の向上
- 2 学校図書館の活用
- 3 公立図書館による支援

方針4 誰もが「使いたい」図書館

①DXで「使いやすい」を叶えます

「時間がない」「手続きが煩わしい」といった理由で図書館利用や読書から遠ざかってしまうことがないように、ICT技術の進展に柔軟に対応することで利便性を改善していきます。

②「使いにくい」を改善します

年齢や国籍、障がいの有無、入院や施設への入居、働き方などその他の事情や個性といった多様な読書のかたちに対応したサービスを提供します。

③「使ってみよう」を発信します

SNSの双方向性を活かした情報発信を企画するなど、図書館を「よく知らない」人たちが「使ってみよう」と行動に移すきっかけとなるようなプロモーション活動を行います。

課題の整理

第1節 資料の整備・協力

2 電子書籍の導入

第2節 新たな利用者の取り込み

- 1 DXによる貸出・返却の効率化
- 2 SNSの効果的な活用

第6節 誰もが利用できる図書館

- 2 多様な利用者へのサービス
- 3 利用に困難がある人へのサービス